

# 保安防災【14,50,DMA,LA6,LA10】

## 花王のアプローチ

事故を防止し、緊急事態への対応やセキュリティ強化に関する事項を定め、社員の安全の確保と安定な操業を維持することを目的として保安防災活動を行なっています。こうした活動により事故ゼロをめざします。

## 社会的課題と花王のアプローチ

他社において化学プラントでの事故が相次ぎ、自然災害も多く発生している昨今、大規模化学プラントを有する花王に対する安全操業への要求はますます高まっています。

花王では、地域住民や社員の安全を確保するため、保安監査

や保安訓練を徹底し、防災訓練を定期的に行なうことで、事故発生リスクの抑制と、事故が発生した場合の適切かつ迅速な対応を常に検討し、SDGsの目標11「包摂的で安全かつ強靱で持続可能な都市及び人間居住を実現する」への寄与に努めています。

## 方針

花王は「保安防災」の活動方針を、花王レスポンシブル・ケア(RC)方針に「火災、爆発および化学物質漏えいを防止し、安全で安定な操業を維持するとともに、自然災害やセキュリティ強

化に配慮して、設備対応と定期的訓練を行ない、緊急時に備える」と明確に定めています。この方針に沿って事故の防止に努めています。

## 体制

日常の保安防災活動は、RC推進体制に基づいて行なっています。事故・災害が発生した場合には、グローバルな緊急事態連絡網を通じて発生を把握するしくみを構築しています。さらに、事故・災害が事業活動に重大な支障を及ぼすと予想されるときには、社長を本部長とする緊急事態対策組織を即時に立ち上げ、人命を第一とした初動対応をはじめ、事業継続計画(BCP)

※に沿った対応などをグループ一丸となって行ないます。

※ 事業継続計画(BCP)

さまざまな事象とその要因により事業活動の中断や停止が引き起こされる場合を想定し、その状況に応じてどの業務・機能をどのような方法で維持・継続させるかを事前に決めておき、会社としての重要業務を継続させるための計画。

→P183「レスポンシブル・ケア活動」

## 教育と浸透

花王は、“よきモノづくり”をグローバルに、永続的に行なっていくため、さまざまなプログラムを通じて保安防災教育を行なっています。その中の「モノづくり技術・技能伝承センター」では、生産現場を担う若い技術者が、さまざまなトラブルや危険な状況の疑似体験を通して必要な知識・技能を学び、技術の伝承に努めています。また、国内外の次世代リーダーの育成に向け、和歌山工場内で8カ月にわたり、生産技術や“よきモノづくり”の精神を学ぶ「グローバルテクノスクール」を開校し、保

安防災を含めたさまざまな研修を実施しています。

また、毎年、防災メッセージを提示し、地震防災手帳を発行することで、防災の意識向上を図るとともに、過去の事故発生日を「安全の日」と定め過去の教訓を風化させないように努めています。

→P184「レスポンシブル・ケア活動／教育と浸透」

→P133「カルチャー」一人ひとりの可能性を引き出し成長を促す人財育成」

## 中長期目標

場内火災、爆発事故、漏えい事故、物流漏えいゼロを目標に活動しています。

## 2016年の目標と実績

グローバル

2016年、花王は「安全で安定な操業の維持」のため、保安上の事故撲滅に向けて変更管理※の徹底、化学設備のセーフティアセスメント、定期点検、パトロール強化を実施しました。また、防災活動として防災訓練の充実とセキュリティ強化を目標に挙げて、各部門においてさらに詳細な実行内容と計画を策定して活動しました。

※ 変更管理

変更に伴うリスクを事前に想定して対策を講じ、障害や不具合、事故などを防止するマネジメント活動のこと。

火災・爆発・漏えい事故の概要は以下の通りです。

### 小規模な火災：3件

- ・廃棄試薬の不活化処理中、冷却水混入により反応と発火。
  - ・可燃性液体を紙ウエスで拭き、ウエスがごみ置場で発火。
  - ・工事中に火花が可燃物に飛び火し発火。
- 廃棄試薬の対応ルール、作業処理、工事の管理・徹底を実施します。

### 爆発・漏えい(場内)・物流漏えい

2016年の爆発・漏えい(場内)・物流漏えいはありませんでした。

### 2016年 目標と実績

項目	対象	指標	2015年	2016年	
			実績	目標	実績
事故	花王グループ	火災・爆発・漏えいなど(件)	6	ゼロ	3
		物流漏えい※(件)	1	ゼロ	0

※ 物流漏えい：製品等の輸送中における漏えい事故

## 2017年の目標

グローバル

2017年も引き続き場内火災、爆発事故、漏えい事故、物流漏えい事故ゼロを目標に活動します。

### 2017年の目標

項目	対象	指標	2017年目標
事故	花王グループ	火災・爆発・漏えいなど(件)	ゼロ
		物流漏えい(件)※	ゼロ

## ステークホルダーとの協働

- ・発生した事故・災害の被害を最小限に抑えるため、消防署や地域の企業等との合同訓練を定期的に行い、防災活動のレベル向上に努めています。
- ・海外生産拠点においては、必要に応じて、テロを想定した訓練を地元の警察と合同で行なっています。

## 具体的な取り組み

### 大規模災害に備えた緊急事態対応訓練

日本

花王グループでは、各事業場単位での消防訓練・避難訓練以外に、大規模災害に備えてグループ全体で訓練を実施しています。

#### 安否確認訓練

2016年は花王グループの全社員を対象に、安否確認システムへの入力訓練を3月、9月にそれぞれ2日間にわたり実施、入力率はいずれも100%を達成しました。2014年9月の訓練より5回連続の100%入力を維持しており、これからも訓練を継続していきます。

#### 地震を想定した全社通報連絡訓練

花王グループは、首都圏での地震により本社が被災することも想定し、東西に対策組織を整えています。

2016年は、5月には南海トラフの大地震を想定した訓練を、11月には首都直下地震を想定した訓練を実施しました。

訓練では、被災拠点は人的および物的被害状況を衛星携帯電話や社内災害用電子掲示板およびウェブサイトを使用した会議システムで対策組織に迅速に伝達し、対策組織は情報に基づき必要な対応を行ないました。これまでの訓練で得た反省点をもとに、訓練内容の見直しを随時行なっています。

→P180「ガバナンス>リスクと危機の管理」

### 防災の監査

グローバル

2015年までは、アジアの化学品工場(5カ国、5工場)を対象に、2年に1回の監査を実施していましたが、2016年は、さらに中国の3工場を加えた6カ国、8工場に活動を広げました。タイ、インドネシア、中国で実施した監査で指摘があった事項への対

応を行なっています。

また、各工場からの監査員が他の工場の監査を行なう取り組みも継続するなど、監査を通じ、各工場における安全防災レベルの向上を図っています。

### 保安・防災の強化

グローバル

SCM部門では、化学設備のセーフティアセスメントの強化として潜在危険の抽出および対応、地震対策を引き続き推進しています。

2016年も化学設備のセーフティアセスメントにより潜在危険

として抽出された、低引火物質の火災防止対策、粉塵爆発対策、自然発火対策、重合・発熱反応設備の安全対策を継続的に行なっています。地震対策では、建屋耐震診断・補強、液状化対策、津波対策を推進しました。

## 高圧ガス保安検査・監査・査察

日本

和歌山工場では、高圧ガス保安法の認定保安検査実施者※の認定を受けており、2016年は、9月に保安管理部門の保安監査、10月に保安管理の長である社長のもと保安査察を実施し、保安活動について問題がないことを確認しました。

他事業場の高圧ガス設備は、外部の検査機関による保安検査を実施しています。保安監査・保安査察は自社で実施し、安全操業に努めています。

※ 認定保安検査実施者

高圧ガス保安法に基づき、特定施設が技術上の基準に適合しているか否かについて、運転を停止することなく自ら保安検査を行なうことができる者または運転を停止して自ら保安検査を行なうことができる者として、経済産業大臣が認定した者。



和歌山工場での高圧ガス保安査察